

Meinan Management Review

1

特集 2026年の動向と 注目すべきポイント ～パラダイムシフトにどう対応するか～

- 永井晶也のトップインタビュー
- 情熱とスピードでAI時代を乗り越える
- 大転職時代 継続する組織
- ワンポイントアドバイス
- 今後のセミナー案内

2026年 人とA Iの協業時代に向けて

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は皆さまには大変お世話になりました。2026年も名南コンサルティングネットワークの総力を挙げて、成長意欲の高い皆様の経営のご支援をしていく所存でございます。引き続きご愛顧のほど、よろしくお願い申し上げます。

さて、昨年2025年は、皆様にとってどんな年だったでしょう。大きなポイントでいえば、長らく続いたデフレ経済から、インフレ経済への移行がより鮮明になった年といえます。日経平均株価は、1年で26%程度の値上がりでした。国際的な貿易摩擦等に端を発して、様々な物価が高騰し、人件費も増加しました。国を挙げての価格転嫁の要請により、これまでに経験のない、値上げのお願いで増収となった企業も多いと思います。

この間、確かに販売の「単価」は上昇した感があります。一方で販売の「数量」はどうでしょう。私の肌感覚では、トップシェアの争いをしているクラス of 企業を除き、多くの企業で販売数量は減少している先が多いように思います。決算書上は増収になっているものの、値上げの影響で数量が減少しているため、増収の程度は限定的となっています。また、様々なコストが増加する中、（量が減っているために）生産性がなかなか高まらずに、利益はそれほど増えていないという状況をよく目にしました。

2026年はどんな年になるのでしょうか。

深刻な人手不足が叫ばれて久しいですが、こうした人的な問題について、一定の方向性が定まってくる可能性があります。A Iの活用です。すでに大手企業を中心に様々な業種でA Iの活用が進んでいますが、こうした流れは確実に中堅中小企業にも波及してくることでしょう。先日もあるスタートアップ企業の創業者から「誰でもできる仕事をゼロにする」という内容のプレゼンを受けました。A Iを活用して、様々なバックオフィス業務を代替するというものです。ホワイトカラーのルーティン業務は、かつてR P A（Robotic Process Automation）が話題となりましたが、当時はなかなか使い勝手が悪く、思ったほどの普及には至っていませんでした。それが、ここにA Iを搭載することで、相当程度融通が利くものになってきています。誰にでも簡単に使える日もそれほど遠くはないでしょう。

更に、現場の技能職等も他人事ではありません。中国のロボット産業は相当程度進んでいます。フィジ

カルA Iというもので、いわゆる人型ロボットが、まるで人間のように作業をこなします。もちろん休憩も必要ありません。気分や体調によって作業レベルが変化することはありませんので、コスト面でのハードルが下がれば、一気に普及する可能性が高いでしょう。

このように、ビジネスにまつわるテクノロジーを活用できるか否かが、企業の存続に大きな影響を与えるようになります。もはや「使うか、使わないか」ではありません。「どのように使うか」の巧拙が業績に決定的な影響を与える時代になったと認識すべきです。

では、人はどうなるのか。

ありきたりな言葉ではありますが、「人にしかできない仕事をする」ということです。そもそも人にしかできない仕事とは、いったい何なのでしょう。人にしかできないことがどんどん減っているように思います。その中で、本当に人でしかできない仕事とは何なのか、そこにどういう価値を付けることができるのかが、これからの経営にとって大きな課題となるでしょう。人にしかできない仕事が無くなった結果、人が本当に不要になったとしたら、そもそも会社が存在する意義があるのでしょうか。

2026年はこうした大きなパラダイムシフトに乗れるかどうかで、勝ち負けが明確になってくる一年になるでしょう。かつて羽ペンがタイプライターに、算盤が電卓に置き換わったのとは比較にならないレベルで変革が進みます。いまやホワイトカラーの仕事は、P Cが無くては成り立ちません。あっという間に、それと同じレベルになることでしょう。

今年はこうした人とテクノロジーの協業が相当程度進んでいくことでしょう。あるいは進められる企業しか生き残れないといった方が正しいかもしれませんが。流動化が進んでいる労働市場も更なる流動化が進むことでしょう。こうした問いに対して、明確な回答ができる企業でなければ、人材の定着は更に難しくなります。それぞれの企業が未来に向けて、何を掲げ、何を求めるのか。強いメッセージを示していかなければ、採用どころか人材を引き止めることすら難しくなります。

これこそが経営者にとって最も重要な仕事となってくるでしょう。

名南コンサルティングネットワーク

永井 晶也

✓ 情熱とスピードでAI時代を乗りこなす

2025年は、例年以上に変動の大きな年だったように感じます。前半はトランプ関税の影響で自動車業界を中心に翻弄されました。後半は高市政権下で「責任ある積極財政」を掲げ、経済成長を実現させようという姿勢への期待もあり、日経平均株価は最高値を更新し、内閣も高い支持率を誇っています。

しかしながら、中小企業の経営においては「原材料の高騰」「人手の不足」「賃金の上昇」などが影響し、厳しい経営を強いられている会社も少なくありません。これらの状況は2026年も続くことが予想されますので、より一層効率よい経営をし、生産性を高めていく必要があります。そのためにはDXの推進、AIの活用などを本格化させていくことが求められますが、AIへの取り組みは、企業によって大きな差が出ているのが実情です。業種や業態により、取り組みやすさは異なりますが、それ以上に、経営者の思考が大きく影響していると感じます。もちろん、AIは万能ではありませんので、使える領域や有効性を見定めていく必要はありますが、日本のAIの利用率は、諸外国と比べて極端に低いのも事実です(右図/上)。「効果的な活用方法がわからない」「セキュリティリスクがある」という項目が、他国と比べると懸念事項として高くなっており、これらが活用の足かせになっている可能性があります。経営者自らがアンテナを高くして情報を得ながら、社内では若手メンバーも加えて推進チームを編成し、どのように業務に活用できるかを検討するとよいでしょう。今年の干支である丙午のように「情熱とスピード」をキーワードに跳躍したいものです。

✓ 大転職時代 継続する組織

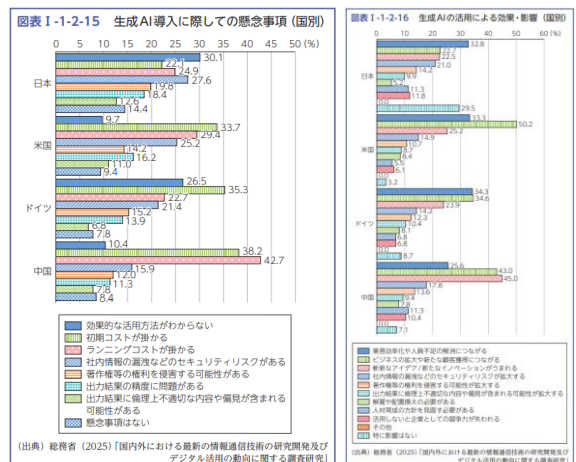
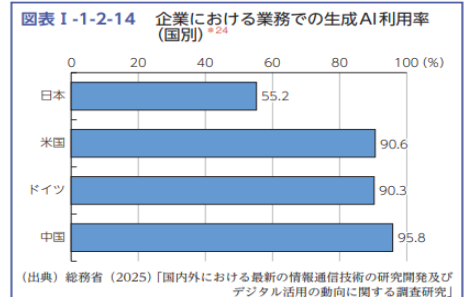
BCP(Business Continuity Plan:事業継続計画)とは、緊急事態発生時に事業停止を最小限に食い止め、早期復旧を可能にするための計画です。近年増加している自然災害、感染症、システム障害などにより、各企業での取り組みが進んでいるようです。

日本では大転職時代に突入し、人材流動はかつてないほどの高まりを見せ、社員の動きに翻弄される企業・職場も多いのではないのでしょうか。人材不足が経営に与える影響は大きく、“人”への対策の重要度は今後もあがるでしょう。1つの対策に絞り込まず、複合的に捉えて取り組む必要があります(右図参照)。早め早めの対策を講じ、風土づくりをしておくとういでしょう。

中でも、重要な点は日常活動における「責任者の育成」です。時流では、フラットで親しみやすい組織が好まれる傾向にあり、これは平常時に多様性・創造性という点で効果性があります。一方、社員の急な職場離脱や入退社など、想定外の外的影響を受けたとき、責任をもって行動できる人がいれば、事業継続を図ることができます。人材不足や人の入れ替わりなど、不安定な状況下では仕事や仲間に対して少し広い範囲に意識を持って行動できる人が必要であり、そこには計画的な機会提供と段階的な訓練が不可欠です。

不安定な中でどのような意識を持てるか、日々訓練していれば、問題解決の力量が身に付き、組織と個人に大いに役立つことでしょう。必ずしも、安定が常ではありません。経営や組織運営は、塞翁が馬、自社の事業を継続できる体制を整えましょう。

【資料1】生成AIの利用率及び懸念と期待



(出典) 令和7年版 情報通信白書

【資料2】BCP:組織運営

事業継続のための人への対策ポイント	
✓	知識・ノウハウの共有
✓	業務の標準化・マニュアル化
✓	複数担当制
✓	人材育成
✓	業務スキル習得の短期化
✓	サポート体制の充実
✓	1 on 1 ミーティング
✓	働きやすい環境整備
✓	キャリアパス・人事制度の見える化
✓	責任者の育成と配置
✓	業務引継・引受の標準化
✓	情報管理の徹底
✓	協力する意思・意欲の醸成

✓ ワンポイントアドバイス

Webセミナーの配信スタート

これまで、定期的に経営セミナーを行ってまいりましたが、今年からWEBセミナーを開始します。トレンド情報や経営のセオリーなど、経営者・管理者の方向けに幅広い情報を配信する予定です。通常のセミナーよりも時間は短く（1本あたり15分～20分程度）、配信期間を設けて、期間中はいつでも視聴いただける形をとりますので、スキマ時間などを有効にご活用下さいませ。1月から3月は以下のセミナーを予定します。

- ・ 1月20日（火）～1月31日（土）
『経営者の分身をつくる 最強の右腕の育て方』
- ・ 2月20日（金）～2月28日（土）
『忙しさから解放される思考法』
- ・ 3月20日（金）～3月31日（火）
『イマドキ新人の教え方
～若者の心を動かす言葉～』

これらは、11月に弊社が出展しましたメッセナゴヤで行ったミニセミナーの内容となっております。立ち見が出るほどの好評を博したセミナーですので、ご視聴下さい。

右記ご案内よりご登録いただくと、配信日にメールが届き、ミニセミナーをご視聴いただけるようになります。是非ご登録ください。

視聴登録は
こちら



経営者大学オリエンテーションのご案内

1988年の開講以来、『実践型研修』としてプロ経営者を育成することをコンセプトに開催している経営者大学は、2026年4月に66期を開催します。

経営者の方はもちろん、後継者、幹部の方など、幅広い方にご参加をいただいております。名古屋市内の研修会場にて、毎月1回、1泊2日、12か月（1年間）の研修です。よりよい会社をつくるため、自らを磨く場として、学びの場を提供しております。

実際に、どのようなことを学び、どういう効果が期待できるのか、より詳しい内容を知っていただくための『オリエンテーション』を開催します。研修の内容だけではなく、メイン講師から経営者大学に対する想いをお伝えするとともに、卒業生の体験報告をお聞きいただくことで、どのようなことが実現できるのかをご理解頂くことができます。ご興味をお持ちの方はお気軽にお申込み下さいませ。

【開催概要】

日時：2月10日（火）18時～20時
会場：名古屋市中村区名駅1-1-1
JPタワー名古屋34F

詳細・お申込み



✓ 今後のセミナー案内

今後予定されているイベント

詳細、お申し込みはこちら⇒



【有料研修】

- 2月13日（金）
入社3年目研修
- 2月17日（火）
管理者パワーアッププログラム 第5講
- 3月12日（木）／3月18日（水）
2025年度 新人振り返り研修（入社満1年研修）
1年間の振り返りと2年目の飛躍に向けた目標設定
- 3月17日（火）
管理者パワーアッププログラム 第6講

【無料セミナー】

- 2月10日（火）
66期経営者大学 オリエンテーション
- 2月19日（木）
【WEBセミナー】
情報漏洩で企業が崩壊する前に・・・
中小企業のための情報セキュリティ実践ガイド
- 2月24日（火）
営業生産性の未来戦略
AIが導く“成果を生む時間”の科学
- 3月24日（火）
売上を伸ばす販促の新常識
“勘と経験”から“戦略と仕組み”へ

【無料相談会】

- 2月17日（火）／3月17日（火）
プライバシーマーク／ISMS 取得更新無料相談会
- 2月19日（木）／3月19日（木）
営業DX個別無料相談会2026
AIとの共存時代における売れる仕組みを構築する
- 2月25日（水）
ブランディング個別相談会
組織力の向上と独自価値の創出に向けて

Meinan Management Review Vol.144

令和8年1月20日発行（通巻第144号）

発行人：永井晶也 編集：水谷マミ

執筆：永井晶也、村野文洋、水谷マミ、
川口真司

名南コンサルティングネットワーク

マネジメントコンサルティング事業部

〒450-6334

名古屋市中村区名駅一丁目1番1号

JPタワー名古屋34階

TEL 052(589)2784 FAX 052(589)2781